

すかいらーくが「経理DX」と 「脱ISDN回線」を同時にかなえた、 ここだけの秘訣とは

すかいらーくグループでは、店舗でデジタルメニューブックを導入するなど全社を挙げてDXに取り組んでいる。経理部門も同様に、DXを通してテレワーク対応やセキュリティ強化、コスト削減といった難題を解決している。こうした中、ISDN回線が2024年1月に終了するという大きな障壁が立ちはだかる。これにより、入出金といった経理業務に不可欠な一部銀行サービスについて利用できなくなってしまう。DXと共に、ISDN回線終了への対応が急務となっていた。同社はどのようにして、同時並行で取り組みを進めたのか。



① 2024年1月でISDN回線が終了…

すかいらーくグループは、ガスト、バーミヤン、ジョナサンなどを直営するレストランチェーンで、国内外に約 3100 店舗を展開。2021 年度の連結売上は 2,645 億円に上る。

その資金管理を担当するのが、すかいらーくホールディングスの財務チームである。同チームでは、複数の銀行サービスを使って資金管理業務を行う。たとえば、銀行の CMS (Cash Management System) を使った取引先への振り込み、子会社の支払い代行、各銀行の専用システムを使った残高・入出金明細の照会などである。

しかし、その 1 つである某銀行の専用ソフトにおいて、別サービスに至急移行しなければならない状況が生まれていた。すかいらーくホールディングス 財務本部 経理財務グループ 財務チームの蔭木 英之氏は、次のように説明する。

「その専用ソフトは、会計システムに取り込むための入出金データの取得、給与振り込み、税金の納付などで活用していました。ところが、同ソフトで利用している ISDN 回線が 2024 年 1 月に終了するため、新たなサービスに移行する必要があったのです」（蔭木氏）

ISDN 回線はアナログ電話回線を使ったデジタル通信網であり、インターネット回線が普及する前から銀行のオンラインサービスで活用されてきた。しかし、固定電話網の IP 化に伴ってサービスが終了するため、新たな回線とそれに対応した新たなサービスが求められていた。ここからは新回線への対応とともに、経理 DX を進めるすかいらーくの取り組みを紹介する。

② ISDN回線に代わる、低コストで簡単な最適解とは

新たな回線とサービスを検討していた同社は、複数の銀行ソフトも含めて比較・検討を行った。その結果、NTT データが提供する VALUX 回線と「BizHawkEye」を導入することになった。同サービスを提供する NTT データ 第三金融事業本部 e-ビジネス事業部 e-ビジネス営業統括部 e-ビジネス商品企画営業担当 竹内 勇登氏は、その特長を次のように説明する。

「現在、すかいらーくグループさまと同様に、ISDN 回線の終了に伴って後継サービスを検討されているお客さまが多数いらっしゃいます。VALUX 回線と BizHawkEye はその後継サービスの 1 つです。VALUX 回線は ISDN 回線に代わる銀行取引用のセキュアな回線サービスです。そして BizHawkEye は、VALUX 回線で利用できるマルチバンク対応の口座・資金管理サービスであり、Web ブラウザを使って 1 つの ID とパスワードで複数の銀行にログインし、資金管理を行うことができます」（竹内氏）

すかいらーくグループが BizHawkEye を選択したのも、まさに VALUX 回線の安全性やマルチバンク対応などのメリットを評価した結果だ。蔭木氏は選定理由を次のように説明する。

「VALUX 回線については、別の銀行サービスですでに活用していましたので、その安全性は確認済みでした。BizHawkEye について最も重視したのは、現在の専用ソフトの機能をすべて網羅していることでしたが、BizHawkEye はその条件を満たしていました。さらに、マルチバンク対応であること、Web ブラウザベースで在宅でも業務できること、そして他のサービスに比べて価格がリーズナブルだったことも選定の理由でした」（蔭木氏）

こうして同社は、VALUX 回線と BizHawkEye を導入。2022 年 5 月から各銀行への利用サービスの申し込み、VALUX 回線の追加契約、BizHawkEye の契約手続きなどを開始した。その後、NTT データのサポートを受けながら口座登録などの初期設定を行い、2022 年 10 月から一部で本稼働した。

1000 件超の入出金データ取得が爆速化

BizHawkEye の本格稼働を開始したが、まだすべての機能を利用しているわけではない。現在、行っているのは、会計システムに取り込むための入出金データの取得だ。データは毎日取得するためその効果は大きいと、蔭木氏は次のように説明する。

「明細の取得スピードは以前よりも早くなりました。日によっては 1000 件を超える明細を取得しますが、BizHawkEye だと一瞬です。また、以前は入出金データを取得したらパソコンに保存する必要がありましたが、BizHawkEye はクラウド上に安全にデータを保存できるので、その点も助かっています。1 回あたりの時間短縮は 5 ～ 10 分程度ですが、毎日の作業なので、その効果は決して小さくありません」(蔭木氏)

また、テレワークの観点でもメリットがあったと、蔭木氏は次のように続ける。

「従来の専用ソフトは、オフィスに設置した特定のパソコンでしか利用できなかったのが、必ず出社しなければなりませんでした。しかし BizHawkEye であれば、電子証明書を取得してログインさえできればどのパソコンでも利用できるので、コロナ禍のテレワークにも対応できます」(蔭木氏)

数万件の振り込みも“一瞬”、経理DXも実現で全社展開か

現在、同社は入出金明細の取得に続いて、給与振り込みのテストを実施している。これも、以前使っていた某銀行の専用ソフトで月に 2 回ほど行っていた業務だ。テストで問題がなければ、2022 年 11 月から本番稼働する予定である。

「従業員が多いので、振込件数は数千～数万件になります。以前の専用ソフトでは 10 ～ 15 分はかかっていましたが、BizHawkEye であれば一瞬で完了する見込みです。また、その後は税金の納付、賃料振り込みなども BizHawkEye で実施する予定です」(蔭木氏)

しかし、給与振り込みについては、送信する給与データにエラー情報が含まれていると、特定の銀行で受け付けられないという問題が起きた。従前の専用ソフトでは問題がなかったため、導入後に判明した問題だが、現在、銀行とのやり取りも含めて NTT データの綿密なサポートを受けながら、解決のメドが立っているという。

ISDN 回線の終了をきっかけに BizHawkEye を導入したすかいらくグループは、現在、全社で DX を推進し、社内のさまざまなシステムの刷新を進めている。



「たとえば、店舗ではデジタルメニューブックや配膳ロボなどを導入しています。経理部門でも、2023 年度に親会社と子会社に経費精算システムを導入し、グループ全体の資金管理業務の効率化を計画しています。それに伴って、今後、各子会社に BizHawkEye を導入する可能性もあると思います」（蔭木氏）

すかいらーくグループと同様に、ISDN回線を用いて銀行とやりとりしている企業は多い。2024 年 1 月の ISDN 回線の終了は、これらのすべての企業にとって共通の課題だ。VALUX 回線と BizHawkEye を用いて新しいサービスに移行し、さらに業務効率化まで実現したすかいらーくグループの取り組みは、こうした企業の参考になるはずだ。

NTT DATA



**BizHawkEye 導入のご相談・ご質問は、
お気軽にお問い合わせフォームからご連絡ください。**